

編集後記

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 : 能楽研究所紀要

(巻 / Volume)

28

(開始ページ / Start Page)

194

(終了ページ / End Page)

194

(発行年 / Year)

2004-04-10

〔編集後記〕

『能楽研究』第二十八号をお届けする。昨年度は創設五十周年記念の諸行事に追われたが、今年度も、本学が文部科学省の21世紀COEプログラムに申請し採択された「日本発信の国際日本学の構築」のうち、主として能楽研究所が進めている「世界の中の能楽」が二年目を迎え、多忙な年であった。七月と八月に能楽資料展「世界の中の能―外国人の能楽研究―」を図書館・資格課程コースと共催し、同じく七月には、展示と響き合う能楽セミナー「能に注がれた外国人のまなざし」を開催した(共催:大学院とエクステンションカレッジ)。いずれも外国人による能・狂言の翻訳、研究、エッセイや創作や海外公演の軌跡を辿りながら、その新鮮なまなざしや深い洞察に迫ろうという企画。ともに盛況裡に終了。目下、成果集を作成中である。また「能楽資料のデジタル化」と「能楽資料及び演能番組の国内外への発信」にも着手した。

こうした中で、紀要の発行で、例年より少し刊行が遅れるが、本号には文部科学省研究費補助金(基盤研究B1)による共同研究「中世から近世・近代にいたる都市と能楽との関係についての総合的研究」の成果として、表きよし所員の「長府藩の能楽」と山中玲子所員の「『公津藩家世実紀』能楽関係記事をめぐって」を掲載した。表章前所長の「『車屋謡本』新考(八)―第二章鈔写車屋謡本(その七)―」は、車屋謡本の総合的研究の再開で、近年、「吉川家旧蔵車屋本」(法政大学鴻山文庫蔵)の零本を大阪の古書肆から購入したが、その新出資料に基づく考察。高額な価格に悩みつつ資料の稀少性に鑑み購入を決め、大学当局の格別の配慮で入手できたものである。

横組みのうち、西野「日本美術史家フリードリッヒ・ペルチンスキー研究(3)」は、昨秋ケルンで思いがけず出会ったペルチンスキーの手紙を中心に進めた論。同じく横組みの英文原稿は創設五十周年記念に西野が作詞した新作能「草枕」の英訳で、翻訳は文学部英文学科の泉谷治教授。難しい作業に取り組んで下さった泉谷治氏に深謝申し上げる。

五十周年記念事業については、研究所の五十年の歩みを略述する形で概要を報告し、「草枕」の試演に関する拙稿を掲載した。遅れ気味の研究展望は、西野と今泉隆裕氏による平成12年分(都合により単行本まで)と橋本朝生所員による平成14年分を載せ、13年は執筆者の都合で次号送りとなった。平成14年の能界展望は山中所員が担当した。(西野春雄)

二〇〇四年四月十日 発行

能 楽 研 究 第二十八号

102-8160 東京都千代田区富士見二-17-11

〔TEL〕〇三三三-六四九八-五
〔FAX〕〇三三三-六四九六-七

編集兼 野上 法政大学能楽研究所
発行者 記念

所長 西野 春 雄

印刷所 三和印刷株式会社
長野市川中島町一八-11